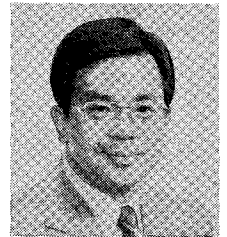




ふじさわ体協

「藤沢市体育協会広報」第10号

発行日 昭和63年11月15日
発行・編集 藤沢市体育協会
〒252 藤沢市遠藤3172秋葉台文化体育館内



神奈川県議会スポーツ振興
対策特別委員会委員長

番場定孝

「新世紀のスポーツへ 望むもの」

一、73神奈川国体にのぞむ

神奈川県議会は県内に広くスポーツを振興発展させるため、また73年に開催される神奈川国体の対応のため、本年スポーツ振興対策特別委員会を設置しました。

十月七日開かれた同委員会では、委員の白熱した質疑が続き、

①三ツ沢競技場(30年国体)はメイン会場としては使えない。

②新会場は20ヘクタール以上が必要。

③来年度中には会場地を決定。

④65年前半までに各競技種目会場地

市町村の決定等が明らかにされました。この特別委員会の新聞報道があるやいなや会場はわが市というラブコールが各市で始まったようです。

まず横浜市は市の一大指針である

「よこはま21世紀プラン」の見直し

作業を進めるなかで十万人収容できる

国際競技場建設などの具体策を盛り

り込んでいき、73年国体にも対応し

ていくというものであります。

平塚市では「神奈川国体は平塚で」とするメイン会場平塚市誘致委員会

(会長石川京一市長)が十月八日市

市議会、体育団体、商工会議所など

から委員を出して設立総会が開かれ

たということであり、今後この種のラブコールは競技種目会場も含めて各市町村から起ってくることは十分予想されます。

さて江の島ヨットハーバーは東京オリンピックのヨット会場で、県内最大の施設と誰も認める所ですが、ヨットは葉山でどうか、大磯でも是非との声が聞えてきました。藤沢市は県内でも立派な複数の競技施設を整備している先進市ですが、73国体でのこれらの活用は市民スポーツの振興はもとより、地下鉄、新交通システム、道路網等整備の推進にインパクトを与えることは明らかです。

73国体を機に本市の新たな飛躍を期待するものです。

児の夏の祭典ともいえる全国高等学校野球選手権大会は、昨今全国的な一大行事となつて国民の間にその人氣は定着しています。

本市にある高校も実力は高く、毎年夏の予選でよく健闘され、八部球場なども本市の高校が会場となると一般市民の応援でいっぱいになる光景がよく見られます。しかしながら神奈川大会で優勝することは、甲子園で優勝することよりもむずかしいとも言われるように、神奈川大会で勝つ事は至難のわざであるわけです。

というのも、この夏の場合ですが神奈川大会は出場校二〇二校もの参加があり、この数は全国最高といわば全国最大の激戦地神奈川ということであり、他方、鳥取県の参加校は23校、高知県は27校と全国で半数以上の県が本県の1/2以下の出場校なのです。これも一県一校出場が原則ならばやむを得ませんが、東京と北海道が二校出場と、不公平です。

九月県議会で取りあげたところ、県当局としても県民感情からして座視出来ない、高野連へ強く働きかけることになりました。

「藤沢の高校を甲子園へ」皆様のご声援もよろしくお願い致します。

二、甲子園、県内二校出場を
湘南高校が甲子園で優勝し、深紅の大優勝旗を藤沢にもたらした記録は、誰もが忘れません。この高校球



種目協会の 横顔

藤沢市バスケットボール協会

藤沢市のバスケットボールの歴史は、戦後体育館等の設備もなく、いろいろな悪条件に制約されながら、鈴木匡雄氏（当時、大道小校長）の発案で市内小学校の校庭に、バスケットボールのリングが取り付けられたことから始まりました。

また、市民大会もオープン競技として行われ善行の陸上競技場の一角に露天のコートが仮設され、市内の事業所のチームや学校のOBチーム等が参加していました。

昭和三十七・八年頃ようやく気運の高まった市民のバスケットボール熱に対して、市体育課から相談を受けた斉藤忠氏（当時、湘南高校勤務）の尽力で、藤沢市バスケットボール

協会が設立され、以後、市民バスケットボール教室等も盛んに行なわれバスケットボールの普及に努めております。

近年当協会では、底辺の拡大、レベルの向上等を目的とした運営方針から、小学生のミニバスケットボールの活動に注目し、市ミニバスケット連盟の設立や大会の運営に協力し、現在では年四回の大会を開催するに至っております。

藤沢市のミニバスケットボールは、昭和四十八年に長谷川正忠氏（当時明治小学校勤務）が三年の生徒を中心に活動したことがはじまりで、その後、長谷川氏と共に指導にあたった方々が本町小・藤沢小にチームを作りましたが、昭和五十六年までは三チームだけの活動で、大会も神奈川県ミニバスケットボール連盟主催の湘南地区リーグが年一回行なわれる程度でした。しかし、バスケットボールが小学校体育の正課となった頃から小学生の関心も徐々に高まり、チーム数も昭和五十九年には男女で十六チームになりました。春に行われる連盟長杯争奪戦は、市内チームの他湘南地区以西の全てのチームを招待するほどの大会になり、県内全域にその活動が評価されることとなりました。

このように発展してきたミニバス

ケットボールですが深刻な問題があります。それは指導者の確保の問題で、現在の指導者のほとんどが小学校の教員であるため、勤務校が変わることにより今まで指導してきたチームが廃部になることがあります。これを解決するためには協会が地域と密着することにより、地元バスケットボール経験者を発掘し、指導者の確保に努めなければならぬと考えております。

また、当協会では昭和五十三年から一般の市長杯争奪戦をその後中学

の市長杯争奪戦、一般及びミニの会長杯争奪戦等の新たな大会を開催し、年令層を越えた市民相互の交流と、競技レベルの向上及び健康の増進に寄与すべく努力しております。

一方、県内でも有数の設備を誇る秋葉台文化体育館の開館により、市内ではそれまで見ることでできなかった日本リーグ等の最高レベルの大会も開催できるようになり、開館記念大会以後、市民の中に「見るバスケットボール」の楽しさも浸透してきているようでもあり、今後「自ら参加するバスケットボール」との両輪をフル回転して、協会運営に努めて行きたいと思っております。

昭和63年度バスケットボール協会
登録状況

チーム数 七十四チーム

登録者数

小学生 五百十人

中学生 七百九十人

一般 四百九十人

合計 千七百九十人



第39回県総体

残念ながら7位となる

26郡市が参加して行われるこの大会は、冬季、夏季、秋季の3つに分かれて開催されていますが、9月25日の本大会をもって幕を閉じました。今年も冷夏に見舞われ9月に入っても雨の日が続き、本大会までも終日雨にたたられ、悪コンディションにもかかわらず一生懸命プレーしている選手諸氏の姿は、印象的でした。本市代表選手団は、各競技に熱戦を繰り広げ、堂々の活躍に心から敬意を表するところです。中でもとりわけバレーボールチームの活躍は目を見張るものがありました。男女それぞれその部で優勝し、総合優勝を連続して果しました。

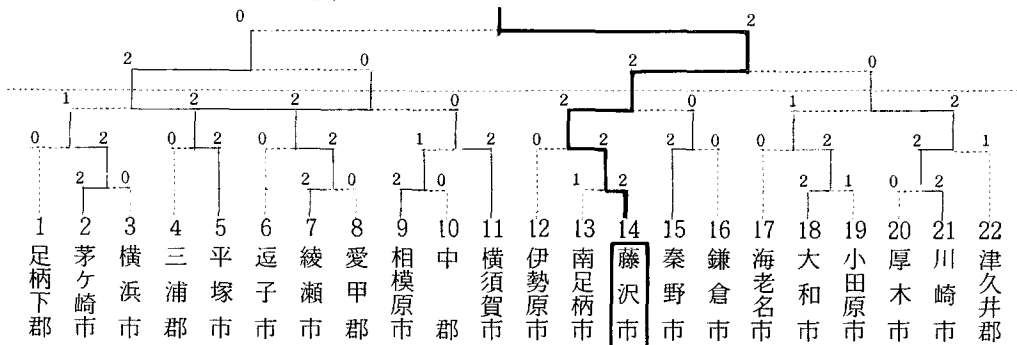
総合の結果は昨年より下がってしまいました。上位との差はわずかなものであります。

県総体の選手選考は各協会とも苦勞を重ねているところですが、競技人口の普及等にご協力をいただく為にも、協会の方々の尽力をよろしくお願いすると共に、本市の各種大会に於ても、ご活躍をお祈りしたいと思います。

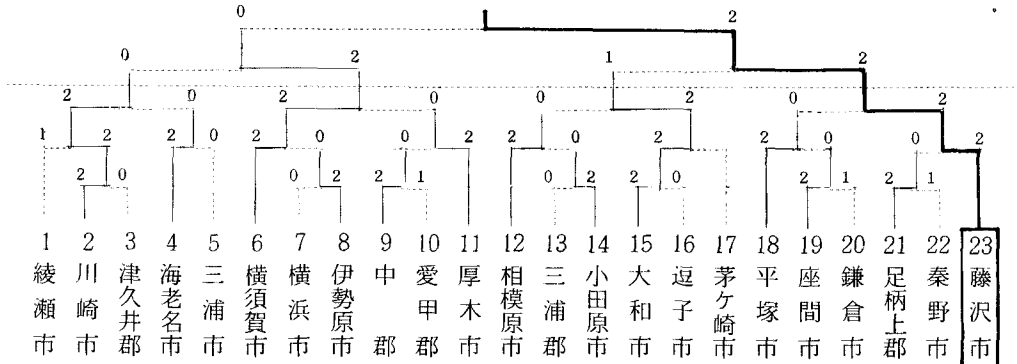
第39回神奈川県総合体育大会成績一覧表

順位	今年	昨年	郡市名	冬 季			夏 季			秋 季			春 季					合計点		
				スキー	ソフトボール	スノーボード	軟式野球	硬式野球	水泳	陸上競技	上技	バレーボール	卓球	剣道	軟式野球	硬式野球	バスケットボール		柔道	弓道
1	2	川崎	23	6	14.5	26	23	25	26	24	22.5	25.5	24	14.5	24	14.5	20.5	24	24	32.25
2	1	横浜	25	23	20.5	24	26	55	23	26	5.5	23.5	26	14.5	24.5	24.5	26	26	31.9	
3	3	小田原	19	6	24	20	24	135	20.5	20.5	22.5	25.5	13.5	24	24.5	14.5	20	29.2		
4	5	横須賀	17	25	14.5	13	25	23.5	25	14.5	22.5	20.5	25	14.5	0	14.5	25	27.95		
5	4	相模原	26	26	23	21	21	19	6	20.5	5.5	8	20.5	23	15	2.5	19	27.85		
6	6	平塚	22	14.5	26	22	19	23.5	14.5		5.5	8	20.5	9	20.5	23	21	26.35		
7	4	藤沢	21	24	6.5	19	17	26	20.5	14.5	22.5	8	20.5	14.5	8.5	7.5	17	24.7		
8	1	厚木	24	6	14.5	23	18	16	14.5	14.5	22.5	15	0	26	8.5	20.5	22.5	24.55		
9	5	伊勢原	8.5	20.5	20.5	9.5	15	17	6	20.5	14.5	20.5	16.5	14.5	24.5	20.5	12	24.05		
10	7	大和	18	20.5	6.5	18	14	22	6	9	5.5	20.5	23	20.5	15	20.5	14	23.3		
備 考				第3位						一般男子優勝			一般女子優勝			総合優勝				

◎バレーボール競技 (一般男子)



◎バレーボール競技 (一般女子)



第43回市民総体

— 総合優勝は長後地区 —

五月から予選を行ってきた第43回市民総合体育大会の本大会が、去る九月四日に県立体育センターほか市内各会場にて開催されました。

主体となる地区対抗競技は、34地区三、四四人の参加者を数え、盛大に行われました。

各競技とも各地区の団結力がうかがえる好試合が多く、白熱した得点争いが展開されました。

その他、この日を中心とした日程で各種オープン競技も開催され、市内スポーツ愛好者がしのぎを削っています。

△地区対抗成績▽

総合 優勝 長後地区

準優勝 滝の沢地区

第三位 亀井野地区

競技別優勝

陸上競技 高谷地区

バレーボール 藤沢

軟式野球 長後・八松

軟式庭球 高砂

ソフトボール 亀井野

バドミントン 長後

卓球 滝の沢

秋葉台公園

屋内プールオープン



昨春秋より建設中の秋葉台公園屋内プールが、十一月十三日(日)にオープンしました。

これにより市営屋内プールは、石名坂温水プールに続き2ヶ所目になる訳ですが、今回の屋内プールは太陽熱を利用してのが特徴となっております。

プール室に入りますと、南面が屋根の一部までガラス張りになっており、屋内プールとは思えない景観をかもし出しております。又、夏には芝生広場のサンデッキに出て日光浴もできるようになっております。

施設概要

○25Mプール(水深1.1~1.2M) 8コース

○幼児プール(水深0.5M)

利用料金

○大人 一回 三〇〇円

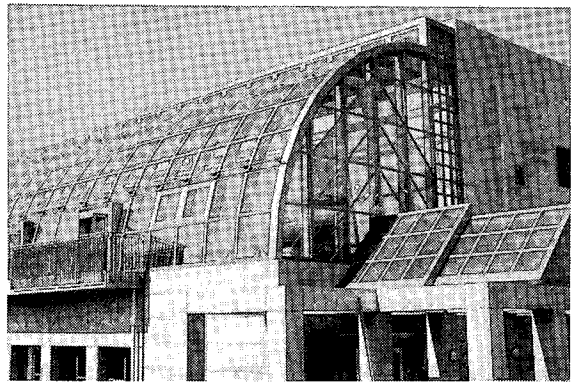
小中学生 一回 一〇〇円

未就学児 無料

利用時間

午前9時30分から午後8時まで

尚休館日につきましては、秋葉台文化体育館と同様の扱いです。



国体関東ブロック大会

無事終了

8/27~8/29開催の第43回国体関東ブロック大会は、藤沢市各会場に於て、サッカー・バレーボール・ボクシング・フェンシングと4種目の熱戦が繰り広げられました。皆様方の暖かいご声援ありがとうございました。

都県別通過率神奈川県56.9%と一位の成績で通過しました。京都国体秋季大会では天皇杯・皇后杯とも第六位の好成績をおさめました。

スポーツ人の集い

お知らせ

本年二月十三日に本市スポーツ人が一堂に会しました第三回「スポーツ人の集い」は、盛況のうちに終了致しました。

第四回は、昭和六十四年二月十八日(土)に予定しております。

詳しくは後日お知らせ致しますが、前回にも増して関係各位の御協力とご参加を賜りますよう、お願い申し上げます。

柔道協会への

お詫びと訂正

9月4日に市民総合体育大会柔道競技が盛大に行われました。

前号9号に記載されませんでした事を深くお詫び申し上げます。

SPORTS

賛助会入会のお知らせ

SPORTS

皆様におかれましては、日頃賛助会員制度の趣旨をご理解いただき、ありがとうございます。

昭和63年度も入会手続きをいたしており入会いただきました方々には体協独自の限定版テレフォンカードをお贈りしております。多くの方々にご賛同いただきますようお願い致します。